2023 年春号　「今，教育の意味を」

教育支援センター 特任教員 我妻　享

新学期がスタートしました。新型コロナウィルスの感染拡大から約３年，大学の日常も大きく変わりました。今，改めて教育とは，人と人との関わり合いが重大な意味を持つものだと感じています。

私が以前勤務していた特別支援学校では，重い障害をもつ子どもたちとのかかわりの中で，子どもたちのわずかの変化を受け止めようとすること，子どもを深く理解し，その子どもそれぞれに応じた伝え方をすることを大切にしていました。子どもたち一人一人の違いを理解し，日々の変化，成長を感じ取ろうとすることが，教育にとって大切であることを学びました。

２０世紀イギリスの哲学家メアリー・ウォーノックは，ウォーノック報告（1978）として「特別な教育的ニーズ」の概念をまとめ，当時の首相マーガレット・サッチャーに提出しました。日本の特別支援教育は，この流れに大きく影響を受けています。ウォーノックは，教育の目的について「教育とはすべての子どもが歩かなくてはならない道であり，しかも，たどり着く先は同じで，そこへといたる道はたった一本しかないと，心に浮かんだのだった。その道の終着点には，共通のゴールがある。それは，この世界を理解し，楽しみ，コントロールできる力を与えてくれる自律性である。この道を躓くことなく楽にたどる子どもがいる一方，越え難く思われる困難にぶつかる子もいる。理解し，楽しみ，コントロールできる態勢が完璧に整って世に出る子もあれば，共通のゴールに向けて進んだのかどうか心許ない子もある。しかし後者の場合，その一歩一歩が意味を持つのである。このような子どもは困難を一つ一つ乗り越える手助けを受けなくてはならず，話すことのような他の子なら何の苦もなく学べるようなことをするのに助けが必要であることが『特別なニーズ』の概念を生み出すことになった。」と述べています。

教育は，時に難しく実践することが苦しいと思えることもありますが，子どもたちとの関わりは魅力的であり，たくさんの感動と喜びに溢れています。保育所や，幼稚園，こども園，小学校，特別支援学校での子どもたちや先生方とのかかわりの中で学び考えたことが，知識を広め，自己との関係性として理解することで教育実践に生かされます。教育支援センターでは，日々の各専門分野の教員と学生の対話のなかで，数多くの学びと新たな発見，自己の変容する姿に出会います。学生時代に，多くの実地体験を積んで自己の主体を形成していくことが，教育者をめざすみなさんにとって大切であると思います。「キャンパスは街，学ぶのは未来」，福山の街へどんどん出かけていって教育とは何かを見つけましょう。

引用文献：メアリー・ウォーノック「考えるあなたのための倫理入門』高屋　景一（訳）春秋社,2022